

論文 / 著書情報
Article / Book Information

論題(和文)	saveMLAK 震災を受けてMLAKになにができるか, なにができたか
Title(English)	
著者(和文)	阿児雄之
Authors(English)	Takayuki Ako
出典(和文)	人文科学とコンピュータシンポジウム 「じんもんこん2011」, , ,
Citation(English)	, , ,
発行日 / Pub. date	2012,
権利情報 / Copyright	ここに掲載した著作物の利用に関する注意: 本著作物の著作権は(社)情報処理学会に帰属します。本著作物は著作権者である情報処理学会の許可のもとに掲載するものです。ご利用に当たっては「著作権法」ならびに「情報処理学会倫理綱領」に従うことをお願いいたします。 The copyright of this material is retained by the Information Processing Society of Japan (IPSJ). This material is published on this web site with the agreement of the author (s) and the IPSJ. Please be complied with Copyright Law of Japan and the Code of Ethics of the IPSJ if any users wish to reproduce, make derivative work, distribute or make available to the public any part or whole thereof.

saveMLAK

震災を受けて MLAK になにができるか、なにができたか

日下 九八

阿児 雄之

1. saveMLAK について

saveMLAK とは、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災で被災した博物館 (Museum)、図書館 (Library)、文書館 (Archives)、公民館 (Kominkan) 施設や関係者の支援を中心に、全国の有志によって進められているプロジェクトである。地震発生直後、ツイッターの「ライブラリーサービスはいまなにができるか考えようぜ。」というつぶやきから図書館だけでなく文書館、博物館へと広がり、MLAK それぞれが savelibrary, savemuseum, savearchives, savekominkan というタイトルで @wiki を利用したウェブサイトにて、各施設の被災・救援情報を集約する活動を始めた。Skype を用いた会議、googlegroup を利用したメーリングリストのやり取りを経て、4 月 11 日にこれら 4 サイトを統合し、セマンティックメディアウィキを用いた saveMLAK サイト (<http://savemlak.jp/>) が開設された。以後、メーリングリストやフェイスブックでの意見交換や、複数会場をスカイプを介して結びつけての会議などを併用しながら、本サイトを軸として活動が展開されている。

参加者の多くは MLAK 施設・機関に属する者が多く、それぞれの分野の学会・協会などにも所属するが、個人として自発的に参加している。

2. サイト構成

現在の saveMLAK サイトには、設立当初から収集を進めている各施設の被災情報・救援情報だけではなく、実に多様な情報が存在している。saveMLAK に集められた様々な情報は、次のとおり大きく分けられる。

- メインページ
- 施設情報ページ
- 関連コンテンツページ
- ウィキ編集者用ページ
- ニュース、ツイッターなど

これら各種ページへのリンクを整理し提供しているのがメインページである (図 1)。saveMLAK が有している情報の全体像をつかむことができる。

上段に、収録情報の大部分を占める MLAK 施設の情報があ。登録館数や被災館数が判別できるような形で、「館種別」「地域別」に分類して提示している。また、被害報告のあった施設に関しては、その位置を Google Map に館種別のアイコンにて表示している。これら施設情報は、2011 年 11 月現在で 13,762 件に達している。

中段に、被災した施設や人々、これからボランティアに向かう人々に対して有用と思われる情報等を対象者別にまとめている。被災地の図書館や避難所に対するレファレンスサービスである「だれでも・どこでも Q&A 図書館」や、文書のカビ対策法を知ることができる「資料修復のための情報」、「これから被災地にボランティア活動に行く方へ」では、

The screenshot shows the saveMLAK website's main page. At the top, there's a navigation bar with links like 'ホーム', '施設情報', 'ボランティア', etc. Below this, a large map of Japan displays various colored markers indicating disaster locations. To the right of the map, there's a sidebar with social media links for Twitter, Facebook, and others. The main content area is divided into several sections: '被災地・避難・支援をしている方へ' (For those helping disaster-stricken areas), '被災地で復旧活動をしている方へ' (For those engaged in restoration work in disaster-stricken areas), 'これからボランティア・支援活動をしたい方へ' (For those who want to do volunteer or support work from now on), and '全国の施設関係者の方へ' (For those involved in facilities nationwide). Each section contains detailed information and links to relevant resources.

図 1 : saveMLAK メインページ

そして、下段にサイトでの情報編集をおこなうときに参照するガイドラインや、作業状況を把握するToDo リストなどへの案内をまとめている。

各 MLAK 施設単位で存在するページが「施設情報ページ」である（図 2）．共通のテンプレートを用いて，施設の基本情報・被害状況・運営情報・救援状況等を掲載している．日々，参加者により収集情報が反映され，多くの人々が被災地の状況を知ることができるページであろう．

被災状況や運営状況、救援状況については、記入者と情報源を明らかにする形で提示している。これら情報は、時系列に沿って追記されていくので、復興過程や現在の状況を知ることができる。これら状況は、項目ごとに編集が可能であり、できる限り作業負担の軽減を目指している。

4. 活動上の問題点

- ・MLAK 間の常識や価値観の相違：それぞれの定義の問い直し，ページのデータ作成時の意識の違いなど

atwiki, メディアウィキのいずれにおいても、誰でも編集が可能な設定にあり、被災情報を得て、それを入力することは難しくない。しかし、「編集」ボタンをクリックすることに抵抗がある様子が見られた。特に公共施設に所属している場合、SNS サービスなどに参加しにくく、編集経験がないという声もあった。saveMLAK では、「うきうきウィキ祭り」と称したワークショップ的なイベントを開催しウィキペディア参加者やメディアウィキコミュニティの支援を得ることができた。

個人個人のコンピューター、インターネットとの接し方や、個人の活動と組織の活動を相乗的に成果に結びつける試みとして、多くの関心を得、できれば一人でも多くの方に、参加していただけることを期待する。

